

握拳 二十八鷹之圖續

我れ鷹を天地乃わひの志志の物少くあはるる會の

中の悍るなり故よ王公大人に飛とあひせあこいふ

事すなく古史舊載むかくる是と出せ利禮記云

七月鳩仁為鷹とのひ又鷹乃鷹子習とや以り去

秋は鳩光里為鷹の皮ちり邦初と茶若鷹よ鷹

善吏と良鷹の少色は法せり加旃少婢の鷹と奕鳩氏

こ名付らぬ鳥乃牙冠や子産の母不仁者如を鷹

之逐る雀とつりかく乃とく古今の文人鷹は

猛烈神儀若文よ事とくつり唐よとくいさく典